

沼田市学術協会会報

篝 火

題字 佐藤國利元沼田市教育長

森の博物館玉原 玉原コースガイド

会長 角 田 実

このほど、利根沼田自然を愛する会では「森の博物館玉原」コースガイドの銅金沢・キャンプ場コース⑤を発行しましたので紹介いたします。

このコースは、センターハウスよりブナ平入口から銅金沢に沿って歩き、玉原スキー場を横断してキャンプ場に入りま

成の際の土捨て場であった中心広場をぬけてセンターハウスに戻る、比較的高低差の少ないコースです。沢筋には湿地を好む植物が多く見られ、ブナ林に入るとつる植物も面白い姿を見せてくれます。キャンプ場からのブナ林は、ブナ平に劣らない豊かなブナ林です。ヒノキ林や中心広場等、玉原における人々と自然の関わりが感じ

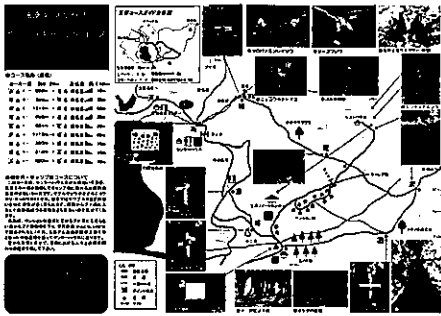


表 面



裏 面

第 32 号
令和3年11月1日発行
発行 沼田市学術協会
会長 角 田 実
沼 田 市 下 之 町 888
沼 田 市 教 育 委 員 会
生 涯 学 習 課 内
TEL 0278 (23) 2111(代)

講 話 会

日時 令和三年一月二十七日(水)
会場 中央公民館第一講義室
講師 沼田市観光ガイド協会 会長 中島 靖浩先生
演題 「ふるさと地名散歩」

台地上の中心市街地の地名を取り上げて紹介します。まず、天狗プラザ信号を南に向かう道は、鷹の餌を取る人達が住む餌差町。シルバー人材センター西側の道付近は、鷹師の住む鷹匠町。天理教会斜め前から馬喰町に向かう道は、蕪買の家や近くに検定場があり、市が立ち市場通りと呼んでいました。次に、本町通り塩谷印房店横の道は、城門付近に馬出郭があり、お馬出し通りと今も呼んでいます。

南明は、環状線沼田公園東側一帯の小字名です。この地名は真田伊賀守が帰依した僧侶の名前で、寺を建て南明山瑞麟寺と呼んでいました。しかし、南明は突然出奔し寺は廃寺。今、小松屋付近の城堀川の南明橋に、その名前が残っています。

十三割は、城堀川(滝坂川)沿いの桜町の小字名です。江戸時代城堀川の治水が不十分で、しばしば氾濫し水害を起こしました。この付近の土地の所有者は、所有地を数年ごとに引き引きで割り変え、受益と公平を期したのです。この制度を割り地制度と呼び、長野県や新潟県に

ここに、全5コース(玉原湿原一周①、ブナ平②、ニヶヶ山③、鹿俣山④)が完成いたしました。自然観察や玉原散策の折りには是非ご利用してください。

多く見られます。久保産婦人科医院の近くに、古陶磁十三割の看板が今も見られます。三軒家は東原新町歩道橋付近の地名です。明治二十年頃歩道橋近くの道路の北側に藁家三軒が建ち、原の三軒家と呼ばれていました。この地名は、一字違いますが、バス停「三軒屋」として残っています。

次に、平安時代の漢和辞書「和名類聚抄」の各部の郷名利根郡の項を見ると、沼田(奴未太)、男信(奈萬之奈)、笠科(加佐之奈)、具桃(奈久留美)と記されています。この時代の一郷は五十戸、當時は、大家族制なので、一戸に二十五人位住んでいました。すると、当時の利根郡の戸数は二百戸、人口は五千人ということが出来ます。



本会の活動も「森の博物館玉原」の調査、研究を継続し、玉原の自然の保護の大切さを啓発していきたいと考えています。よろしくお願いたします。

各団体の活動の紹介

薄根の宝「石墨棚田」の再生を目指して

沼田市観光ガイド協会会長 小池 大介

人口減少と産業の衰退

「石墨棚田」がある薄根地区は、沼田市中西部に位置しています。昭和二十九年の町村合併後「薄根村」から「薄根地区」となり、沼田市における「学区区」であり、地域のコミュニティとなつていきます。面積は一五・八七平方キロメートル、人口は六、一八六八、二、二四三世帯、一六ヶ町、農家数一八四戸、世帯員六〇四人(平成二十七年国調)です。

主な産業は傾斜地域ながらも水利を活かした稲作と果樹



オーナーによる稲刈 (令和2年9月)

栽培を始めとする農業、また工業出荷額が群馬県有数のパナソニック内装建材(株)群馬工場を中心とする製材業です。史跡は中世の城址二ヶ所、国指定天然記念物など計八件の文化財があります。

しかし近年、年少人口及び生産年齢人口が減少に転じ、林業は輸入材に押され、養蚕業は乾繭価格の低迷により衰退し、耕作放棄地や空き家が増え、消防団や育成会などの役員の担い手が見つからないなど、地域コミュニティにも影響がはじめています。棚田の保全と地域活性化を目指して

このような状況に危機感をもち「薄根地区が元気なうちに地域活性化に取り組もう」とのことから、平成二十九年に薄根地区振興協議会幹事会の下に「薄根地区未来委員会」を設置し、幹事及び若手有志や女性を加えて活性化策の検討を行いました。

複数案の検討の結果、石墨町にある棚田(以下、「石墨棚田」という。勾配一/二〇以上を「棚田」と棚田学会で定義)の保全活用をはかりながら薄根地域の活性化に取り組みこととし、活動主体としてNPO法人の設立を目指すこととしました。

平成三〇年には有志一〇名によりNPO法人沼田未来の会を立ち上げ、地元石墨町への説明会を皮切りに事業に着手しました。

活動の中心となる石墨棚田は、当地域の北東部に位置する石墨町内にあり、三峰山(標高一、二二一・五m)の南面に広がる傾斜地で、かつては林業、養蚕と共に、棚田での稲作が盛んでした。

しかし、近年、薄根地域と同様に林業、養蚕業は衰退し、棚田における稲作も人口減少と共に耕作放棄地が増え、空き家も目立つようになりました。

石墨棚田は、土地改良面積が約三九ヘクタール、未改良面積約三ヘクタールで、計約四二ヘクタールの規模です。このうち中山間地域等直接支払交付金の集落協定面積は約二四ヘクタールで、多面的機能支払い交付金地域面積は二七ヘクタールです。とりわけ耕作放棄地が多いのは、未改良の三ヘクタールです。

こうした耕作放棄地を借り上げオーナー制により再生を進め、併せてホテルを復活させ、かつての棚田に近づけた

受皿としてNPO法人沼田未来の会を中核とする「薄根地域ふるさと創生推進協議会」を立ち上げ、令和元年、農林水産省所管農山漁村振興交付金事業の公募に応募し、農泊地域として指定、併せて交付金の給付を受け活性化事業を展開しています。事業内容は、棚田のオーナー制、コメの販売、リンゴや野菜の収穫、味噌づくりなど各種体験事業や農家民泊を手掛けています。

目標は、石墨棚田を公園のようにして、農業体験をはじめとする体験交流の拠点化を図り、棚田の保全と薄根地域全体の活性化へ広げていきたいと考えています。

森の博物館「玉原」の地衣類

利根沼田自然を愛する会

林 徳 一

鹿俣山の地衣類調査

大気汚染の環境指標生物として地衣類では、ウメノキゴケが有名ですが、標高や積雪量の関係で、玉原にはウメノキゴケそのものはありません。しかし、玉原のブナ林は本来の樹皮が稀にしか見えないほど多種多様な地衣類が豊富に付着しています。

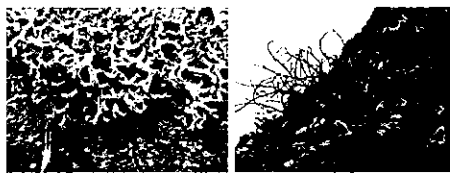
今年(春先(三月下旬)に、鹿俣山々頂から玉原キャンプ場周辺の未調査区域の地衣類

調査を実施しました。積雪期の調査は、登山道を外れた無雪期ではなかなか辿り着けない場所や、目線が無雪期より一m以上高い場所を確認できます。鹿俣山々頂周辺はミヤマアオダモやミネカエデ、ナナカマドなど地衣類が付着しやすい樹種が多く、また、冬季に雪庇ができる雪崩地周辺は霧が発生しやすく、玉原初確認の種がありました。

葉状地衣類(外見上、地衣体



ホンダサルオガセとカラクサゴケ



アンチゴケの仲間 ハリガネキノリの仲間

の表裏の区別がしやすい)では、カプトゴケの仲間(ナメラカプトゴケ、ヘラガタカプトゴケ、テリハヨロイゴケ、エビラゴケなど)、アワビゴケ(ウチキアワビゴケなど)、アンチゴケの仲間(アンチゴケなど)、カラクサゴケの仲間(ナメラカラクサゴケなど)、センシゴケの仲間(ナメラクダチイなど)、クロボシゴケの仲間(ウチキクロボシゴケなど)、ヒメゲジゲジゴケの仲間(トゲヒメゲジゲジゴケなど)、ヒモウメノキゴケやクスレウチキウメノキゴケ、キウメノキゴケなど種・量とも数多く確認できましたが、玉原初確認はありませんでした。

樹枝状地衣類(外見上、付着物から立ちあがる・垂れ下がる)ではサルオガセの仲間(ヨコワサルオガセなど)、カラタチゴケの仲間(カラタチゴケなど)、ハリガネキノリの仲間(ハリガネキノリ)などが確認できました。サルオガセの仲間は湿原やブナ平などで、ヨコワサルオガセ(二又分枝して長く垂れ下がり、主軸に竹の節状の環)とホンダサルオガセ(灌木状でやや垂れ下がる)の二種しか確認できていませんでしたが、鹿俣山々頂直下の霧がたまりやすい場所の大本のブナの枝や幹に、50cm以上長く垂れ下がり魚の骨状に分枝する「ナガサルオガセ」を玉原初確認できました。サルオガセは霧が立ち込め空気がきれいな場所の指標となる地衣類です。また、山頂

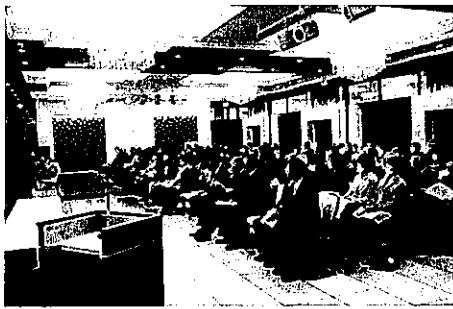
付近のミネガエア樹皮上に「ハリガネキノリ」を確認できました。これも玉原初確認です。サルオガセの仲間とハリガネキノリの仲間は外見上よく似ていて間違いやすい形状をしています。サルオガセの仲間は中軸があり、ハリガネキノリの仲間は中空です。今回は積雪期の調査だったため、地表面に近い木の根元付近に生ずるツメゴケの仲間、ハナゴケの仲間、イワノリの仲間などは確認できませんでした。無雪期に再度、鹿俣山ルート上の調査が必要です。地衣類が誤解されていることがありますので一言。

「文化講演会について」

沼田市桔梗クラブ会長 小林 信 広

令和二年と三年度は新型コロナウィルスの感染が地球規模で拡大する中、桔梗クラブとしての活動は何もできませんでした。そこで、今回は過去の文化講演会について約10年の過去を振り返ってみたいと思います。(当時の経歴をお伝えします)

- 「地衣類が付くと樹が枯れる」などと言われ嫌われることがありますが、樹が枯れる(または樹勢が衰えてくる)と細かい枝葉が落ちて、地衣類の生育環境(特に光)が良くなり、地衣類の生育が旺盛に見える場合が多いようです。
- 地衣類は、寄生植物のように樹皮などから栄養を吸収するようなことはなく、ただ付着して場所を借りているだけです。安定している場所なら樹木に限らず、岩の上でも、コンクリート上でも、ガードレール上でも環境さえ整えば何処だっていいようです。
- 「富岡製糸場と絹産業遺産群の価値」 平成一六年
- 「足から元氣、足から健康」 高橋 毅 先生(BMZ代表取締役) 平成二五年
- 「富岡製糸場と絹産業遺産群の価値」 小野瀬 和男 先生(群馬県歴史博物館次長) 平成二七年
- 「風の中のまほろばに立つ」 須田 清七 先生(沼田青年会議所OB) 平成二八年
- 「真田氏の利根沼田支配から学ぶ」 高山 正 先生(元沼田市教育委員会教育部長) 平成二九年
- 「伝える、ということ」 寺園 淳也 先生(会津大学企画運営室兼先端情報科学研究センター準教授) 平成三〇年
- 「戦国武将に学ぶ人生哲学」 小和田 哲男 先生(静岡大学名誉教授)

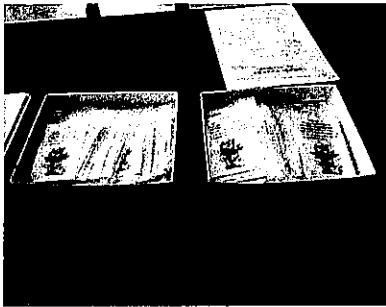


講演中



会長あいさつ

50周年記念事業



来場者に配付した柿梗の種



花束贈呈

※桔梗クラブ五〇周年記念事業
令和元年
「あきらめない心」

伊藤 真波 先生(バラリ
ンピック出場者)

※沼田市公民館の講演会へ
自主参加

以上が実施されました。さら
に過去を振り返ってみると
昭和五二年には秋山ちえ子さ
ん、同五四年には桐島洋子さ

ん、同五九年には元文部科学
大臣の永井道雄さんが講演さ
れた記録が残っています。

終わりになりますが、当団
体も現在のコロナウイルスに
よるこのような日々であるか
らこそ、正しい情報を的確に
とらえ、社会のありようを俯
瞰的に眺め、沼田の青少年教
育や地域の発展に積極的に関
わり、行動していきたいと思
います。

沼田市内小中学校の

「SDGs/ESDの

実践状況調査」概要報告

沼田ユネスコ協会事務局長 大島 俊 夫

ESDは二〇〇五年に「国
連の持続可能な社会を実現す
るための教育の十年」として、

日本の提案によって始まり、
文科省では「環境学習」、「国際
理解学習」、「世界遺産や文化財
に関する学習」など八つの分
野をあげ、学校教育において
様々な実践がなされてきまし
た。

また、SDGsは国連が二
〇一五年に採択し、一七の「持
続可能な開発目標」を設定し、
世界の国々で二〇三〇年まで
に達成することを目標にして
実践されています。最近、群馬
県においても認知度が上がり、
自治体や企業でも積極的
に取り組んでいます。沼田市
内の小中学校においても、特
に目標4「質の高い教育をみ
んなに」を中心に、ESDを継
続発展させる形で、環境教育、
福祉教育、男女平等など、SD

GSに関わる実践活動を行っ
ております。

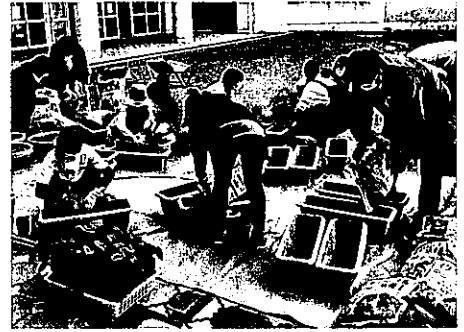
そこで、昨年七月、市内小中
学校にご協力をいただき、こ
こ数年間、特に力を入れてい
るSDGs/ESDに関わる
教育実践事例を調査しまし
た。紙面の都合で、その一部を
紹介させていただきます。

○実践事例1 A小学校
「やさしさの輪を広げよう」
SDGs目標3 6年生
地域のお年寄りの生き生き
サロンに子どもたちが参加し
交流する。今年にはコロナ禍で
お年寄りから手作りのコース
ターのプレゼントをいただいた。
○実践事例2 C小学校
「吹割の滝遊歩道の散策とこ
み拾い活動」
目標6、13、14
4年生 総合、社会科、学校行
事、緑の少年団活動、環境学習、

世界遺産や地域の文化財等に
関する学習、生物多様性に関
連する学習として実施してい
る。

○実践事例3 D小学校
「災害を知って自分にできる
ことを考えよう」
目標4 6年生
総合、防災学習
災害についてその状況や被
害についての関心や理解を深
め、現在・将来にわたって自
分にできることをしていくと
いう防災・減災の心構えや実
践力を育てていく。年間指導
計画に位置づけている。今年
度は噴火による災害やダム
の役割についての理解を深める
ために、鬼押し出し園と八ッ
場ダムの現地学習を実施し
た。

○実践事例4 Q中学校
「愛のくるくるリサイクル
プロジェクト」目標12
こみの減量化に取り組むと
ともに、段ボール、新聞紙、雑
誌、アルミ缶などの資源ごみ
を回収し、車いすの購入・寄
贈をしたり、市からの奨励金
で草花を栽培し、近隣施設な
どへ配布したりするなど、社
会貢献の意識を高めている。



○実践事例5 R中学校
「郷土料理を作ろう」

目標2(持続可能な農業) 1

年生 家庭科

地域の生活研究グループを
ゲストティーチャーに、郷土
の食材を使って、郷土料理を
一緒に作り、会食をすること
を通して、地域の食文化に興



味関心を持ち、地域の農業の
持続性についても考えてい
る。

○その他の実践事例表題

「書き損じはがき・ベルマー
クの回収」

「尾瀬のすばらしさを発信し
よう」

「障害のある人のことを知っ
て、自分にできることを考え
よう」

「流れる水のはたらき」

モラロジー研究会の活動について

沼田モラロジー研究会会長 小菅 邦 雄

私たちは、ここ二年ほどは
新型コロナウイルス感染症の
影響を受け、活動はほとんど
できておりません。モラロジ
ー団体が全国的に活動休止状
態です。そんな関係で数年前
の活動を振り返り、綴ってみ
たいと思います。

私たちの団体の活動をいく
つか紹介します。毎月上旬に
市内の小中学校と公民館(地
区コミュニティセンター)に
「ニューモラル」を配付させ
ていただいております。また、

「特別支援学校との交流」

「城堀川清掃ボランティア」

「ふれあいマス釣り大会」

「花いっぱい運動」などなど

○まとめと課題

どの学校でもSDGsに關
わる多くの実践を行っている
ことがわかる。今後、ユネスコ
協会として、これらの実践を
深め、ユネスコスクール登録
に向けての活動を支援してい
く必要があると思います。

学術協会主催の研修視察にも
毎年参加させていただいてお
ります。

大きな活動として二つ紹介
させていただきます。一つ目
は、例年十月に行われる「生涯
学習セミナー」です。これまで
は、中央公民館を会場に二日
間関東近県から講師の方にお
いでいただき、お話を伺うも
のです。毎日、どのような心で
人に接しているか、人として
の行いとともに、その基とな
る心のあり方(心遣いや考え

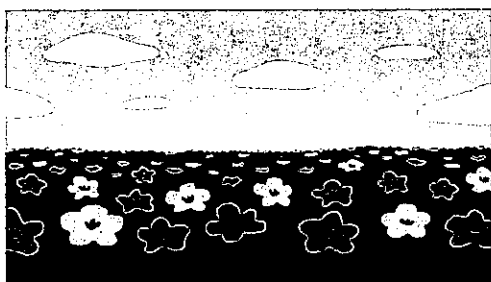
方を中心に)についてモラロ
ジーのテキストを用いて分か
りやすく講義をしていただき
ものです。これまでに二十回
ほど実施しました。コロナが
収まってきましたら、また、実
施していきたいと思っております。

二つ目は「家族のきずなエ
ッセイ募集です。はじめは、み
なかみ町の小学校を中心に募
集しましたが、やがて、みなか
み町教育委員会の後援をいた
だき、みなかみ町の全小学校
から作品を出していただくよ
うになりました。多くの作品
の中から一編を紹介いたしま
す。

「妹の絆」四年生女子

わたしには絆という名前の
妹がいます。どうしてその名
前になったかという、家族
のきずなを深めてくれたから
だとお母さんに聞きました。
なぜなら、わたしが二歳の時
にお母さんのおなかの中で赤
ちゃんが生んでしまったから
です。お母さんは毎日泣いて
いたそうです。でも、おじい
ちゃんやおばあちゃんやお父
さんやわたしがいたから、また、
元気になれたそうです。そし
て、おなかの赤ちゃんが死ん

でしまったからちよほど一年
後の十一月、妹の絆が元気に
生まれました。絆が生まれて
きてくれたことよって、わ
たしの家族のきずなはよりい
っそう強くなったそうです。
きずなは目に見えないけど、
だれかを大切に思ったり、助
け合ったりすることで、自然
と生まれるものなのかなと思
います。わたしは、このエッセ
イを書くまでは、妹の名前の
意味がよく分からなかったけ
ど、すこしい言葉なんだな
あと思いました。妹には、絆と
いうすてきな名前を大切にし
てほしいです。



研修視察記

白沢地区の文化財をめぐる研修

沼田市桔梗クラブ会長 小林 信 広

朝、八時三十分、上之町天狗プラザに集合し、一六名で出発しました。

最初の場所は白沢用水です。沼田万鬼齋顕泰が城内城を築くにあたり、城下の水を確保するために作られました。沼田町民の生活にはなくてはならないものでした。



白沢用水

二番目は宿割りの碑です。高平の宿割りの時に立てられました。

三番目は高平の書院と五葉松です。一六四九(慶安二年)、沼田城主の真田信政が新田開発・宿割等を行った時に使用



宿割りの碑

され、その後一八世紀の中頃、黒田直純により格式ある数寄屋風の書院造りに建て替えられました。その一部が現在残っていると伝えられています。五葉松は推定樹齢四〇〇年、高さ一八m、目通り二・五mほどあります。前述の宿割の際、庭木として植樹されたと伝えられています。

四番目はうつつぶしの森です。新田義貞の三男、義宗最期の地と伝えられ、南北朝時代、義貞の死後再起を図ろうとし



高平の書院と五葉松

てこの付近で足利の大軍を迎え撃ち、矢で右目を射り抜かれうつつ伏せに落馬し最期を遂げたことからこの名がつけました。



雲谷寺

五番目は雲谷寺です。一三三〇(元徳二年)に高平山と号

し雨乞山中に開かれ、一五八〇(天正八年、保鷹山と称し真田昌幸が再興しました。六文銭を寺紋としています。新田義宗の墓とされる塔はお寺の整地の時に埋もれているのが見つかり、今の場所に置かれたそうです。

最後は正縁塚と一本松です。南北朝時代の後期、新田と足利が戦った時の新田勢の戦死者を埋葬した塚と伝えられています。そこに根付いている一本松は、江戸時代立身出世を夢見て江戸へ旅立つた塩原太助が愛馬「あおと」別れた地の松と云われています。現在の松は三代目に当たります。



正縁塚と一本松

学術協会 役員

- 会長 角 田 実 (利根沼田自然を愛する会 九〇名)
- 副会長 石 田 宇 平 (沼田ユネスコ協会 一〇一名)
- 書記・会計 小 林 信 広 (沼田桔梗クラブ 三〇〇名)
- 監事 若 槻 和 弘 (モラロジー研究会 三〇名)
- 監事 小 池 大 介
- 顧問 中 島 靖 浩 (沼田市観光ガイド協会 二四名)
- (内は所属団体名と構成人員数)
- *学術協会総計 (総会時) 五団体 五七〇名
- *事務局 市教委 生涯学習課

《編集後記》

新型コロナウイルス感染症の影響で、どの団体も二年続けて計画通りの事業を実施できない状況にあります。そんな中でも、少しずつではありますが前に進むべく工夫・改善に努めております。それが私たち人間の素晴らしきところだと思います。実りの秋を迎え、様々な経験をもちに進化を遂げている証を是非とも示したいと思います。

さて、今年度も皆様のご協力によって会報をお届けすることができました。ご一読いただければ幸いです。(事務局)